
第 51 回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 抄 録 集

The 51st Annual Musculoskeletal Tumor Meeting of
the Japanese Orthopaedic Association
ABSTRACTS

会 長 高 橋 満 (静岡県立静岡がんセンター整形外科)

会 期 平成 30 年 7 月 12 日(木), 13 日(金)

会 場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
(静岡市)

1-P1-PS5-2	脊椎転移に伴う病的骨折の下肢麻痺へ及ぼす影響	高知大整形	川崎 元敬他	…S1437
1-P1-PS5-3	四肢転移性骨腫瘍に対する手術治療成績の検討	福井大整形	出淵 雄哉他	…S1438
1-P1-PS5-4	転移性脊椎腫瘍に対する姑息的手術後の生命予後 —運動麻痺発症後の待機期間との関連性—	淀川キリスト教病院整形	笹岡 隆一他	…S1438
1-P1-PS5-5	転移性脊椎腫瘍に対する手術後早期死亡例の検討	千葉県がんセンター整形	鴨田 博人他	…S1439
1-P1-PS5-6	上腕骨近位転移性骨腫瘍に対して、リバー型人工肩関節置換術を施行した2例 ……………国立がん研究センター中央病院骨軟部腫瘍・リハ科	廣瀬 毅他	…S1439	
1-P1-PS5-7	当院における転移性骨腫瘍に対する外科的治療と生命予後の検討 ……………岩手医大整形	三又 義訓他	…S1440	
1-P1-PS5-8	転移性胸腰椎腫瘍に対する姑息的固定術の低侵襲化による利点 ……………JCHO 徳山中央病院整形	藤本 和弘他	…S1440	
1-P1-PS5-9	リバー型人工肩関節とパスツール法を用いた再建手術の経験	東医大整形	永井 太朗他	…S1441

第1日 7月12日(木) ポスター会場2

13:20~13:55 ポスター演題6 外科治療		座長 黒田 浩司 (亀田総合病院整形)		
1-P2-PS6-1	再発肉腫に対する胸壁合併切除を伴う拡大肩甲帯離断術の治療成績 ……………慶大整形	浅野 尚文他	…S1442	
1-P2-PS6-2	骨盤悪性骨腫瘍に対する腸管遮蔽スパーサー併用術前放射線照射の有用性 ……………阪大大学院整形	竹中 聡他	…S1442	
1-P2-PS6-3	上腕骨近位部骨肉腫に対して術中体外照射自家骨移植、リバー型人工肩関節置換術を行った1例 ……………大阪国際がんセンター整形	田中 太晶他	…S1443	
1-P2-PS6-4	骨髄鏡視下手術が有用であった大腿骨頸部動脈瘤様骨嚢腫の1例 ……………大阪市立総合医療センター整形	岩前 真由他	…S1443	
1-P2-PS6-5	上腕骨近位部悪性骨腫瘍切除後における肩関節機能の新しい再建法ポリプロピレンメッシュを用いたリバー型人工関節置換術 …埼玉県立がんセンター	公平 勇二他	…S1444	
1-P2-PS6-6	後方進入のみで切除を行った仙骨脊索腫の1例 ……………愛知医大整形	松尾 俊宏他	…S1444	
1-P2-PS6-7	術前デノスマブ投与による骨硬化性変化により容易に腫瘍切除が行えた恥骨発生 giant cell reparative granuloma の1例 ……………帝京大整形	藤沼 涉他	…S1445	

13:55~14:30 ポスター演題7 良性腫瘍と腫瘍類似疾患1		座長 星 学 (大阪市大大学院整形)		
1-P2-PS7-1	骨化・軟骨化を伴う脂肪腫の1例 ……………高知医療センター	田所 佑都他	…S1446	
1-P2-PS7-2	Angiofibroma of soft tissue の2例 ……………東京医療センター骨・軟部腫瘍センター	吉山 晶他	…S1446	
1-P2-PS7-3	右大腿に発生した紡錘形細胞脂肪腫の1例 ……………東邦大整形(大橋)	川村 大悟他	…S1447	
1-P2-PS7-4	予後不良であった多発性良性線維性組織球腫の1例 ……………がん・感染症センター都立駒込病院骨軟部腫瘍科	大隈 知威他	…S1447	
1-P2-PS7-5	尖足を生じた片側下肢多発性 epithelioid hemangioma の1例 ……………日大整形	佐藤 裕介他	…S1448	
1-P2-PS7-6	左大腿骨遠位骨幹端部に発生した juxtacortical chondromyxoid fibroma の1例 ……………がん・感染症センター都立駒込病院骨軟部腫瘍科	石橋 祐貴他	…S1448	
1-P2-PS7-7	骨溶解像を呈した肢端線維粘液腫の2例 …新潟県立がんセンター新潟病院整形	村山 雄大他	…S1449	

16:20~17:05 ポスター演題8 画像診断		座長 熊谷 謙治 (長崎医療センター整形)		
1-P2-PS8-1	当科の軟部腫瘍における FDG-PET 検査の有用性についての検討 ……………琉球大大学院整形	當銘 保則他	…S1450	
1-P2-PS8-2	大腿骨転移性骨腫瘍に対する CT 画像を用いた骨形態評価 ……………信州大運動機能学	高沢 彰他	…S1450	

1-P2-PS7-3

右大腿に発生した紡錘形細胞脂肪腫の1例

川村 大悟¹ 中山 隆之¹ 南雲 吉祥¹ 金子 卓男¹
池上 博泰¹ 武者 芳朗¹ 横内 幸²

今回われわれは大腿に発生した紡錘形細胞脂肪腫の1例を経験したので報告する。症例は71歳男性、13年前に右大腿前面のピンポン玉大の腫瘤に気付いた。近医を受診した後に放置していたが顕著な増大を認めたため当科を受診した。腫瘍は右大腿前面に触知され、弾性軟で圧痛や熱感はない。単純X線では脂肪透過性腫瘍であった。MRIでは皮下に局在し、内部は均一でありT1強調像で低信号、T2強調像で高信号を呈していた。Gdで腫瘍全体に造影効果がみられた。針生検を行ったところ、組織学的には紡錘形細胞の増生がみられ、間質はmyxoidであったがlipoblastは認められなかった。免疫染色でCD34が陽性、STAT6陰性、MDM2陰性であった。以上から紡錘形細胞脂肪腫と診断した。針生検の結果を受けて摘出術を行った。術後経過は良好であり、術後半年で再発や転移は認めない。紡錘形細胞脂肪腫は、WHO分類では多形細胞脂肪腫と同義語とされる。高齢の男性に多く、頸部や項部、上半身体幹部が好発部位とされる。Adrian Marino Enriquezらは232例を報告したが、大腿に発生した例は全体の10%であった。

1-P2-PS7-4

予後不良であった多発性良性線維性組織球腫の1例

大隈 知威¹ 五嶋 孝博¹ 大木 孝裕¹ 石橋 祐貴¹
穂積 高弘² 山川 聖史² 杉田 守礼² 元井 亨³

【緒言】良性線維性組織球腫(benign fibrous histiocytoma: 以下BFH)は皮膚に好発する良性腫瘍であり、通常は切除のみで予後良好である。多発発生例の報告がわずかにあるが、その予後については明らかになっていない。今回われわれは長期経過の後に予後不良であった多発性BFHの1例を経験した。

【症例】82歳男性。60歳頃に左側胸部の皮膚腫瘍を自覚しており、67歳時に他院で切除を受けた。77歳時に同部位に再発し、79歳時に前医で切除を受けた。81歳時に再々発して前医で再切除を受けた頃、右大腿に腫瘍が出現し当院を受診した。右大腿内転筋内の腫瘍に針生検を行いBFHと診断、前医の標本をレビューして同一組織であることを確認した。右大腿軟部腫瘍を広範切除した。2カ月後、右前腕に腫瘍が出現、また左側胸部に再発病変が2カ所出現したため、それぞれ広範切除を実施した。いずれの組織像もBFHであった。その3カ月後、全身に30カ所以上の筋内病変と、10カ所以上の肺病変が出現した。悪性軟部腫瘍に準じてpazopanib 400 mg/dの投与を開始したが、7週投与したところで認知低下と倦怠感のため緊急入院となり投薬中止した。画像上はPDであった。1カ月の入院療養の後、さらに認知低下と全身状態悪化を来し療養型施設へ転医した。

【考察】BFHが皮下や筋層下に発生した場合にdeep BFHと呼び、再発率が高いためBFHと区別することがあるが、本症例の初発病変の深度は明らかでない。一方、BFHが転移を生じることは非常にまれで、死亡した報告は過去に2例のみである。良性で転移能を有しないとされているBFHの多発発生を転移とみなすかは議論の余地があるところであるが、本症例では長期経過で再発を繰り返している内に、同時多発的に短期間で多発病変が出現増悪するという奇異な経過を辿った。「良性」という診断名であってもこのような経過をとる可能性を念頭に置く必要がある。

¹東邦大整形(大橋) ²東邦大学医療センター大橋病院病理診断科

¹がん・感染症センター都立駒込病院骨軟部腫瘍科 ²がん・感染症センター都立駒込病院整形 ³がん・感染症センター都立駒込病院病理